

著名人コメント

五十嵐 耕平 (映画監督) × 森のかたみ

ある朝、目を覚ますとすぐ気分が悪い。なんだか嫌な夢を見ていたようにだけ、内容は全然覚えてない。物語が進むにつれ、その時の居心地の悪さを思い出す。もうすぐ子供が生まれる男の家族の周辺では、一つのはずの世界が分裂と融合を静かに繰り返す。そしてこの映画は常にその間に立ち続ける。物事が解決して世界が一つになっても、自分と他者の身体は、居心地の悪さとともに残る。でもこの居心地の悪い身体と共に生きていくことしか私たちにできない。バスの向こう側に消えた少年は、今、私たちの体の中に宿っている。

内田 英治 (映画監督・脚本家) × 向こうの家

家族・友達・恋人って10代の頃の三大日常を見事に切り取っている。80年代を思い出させる、どこか懐かしく、どこか痛い思春期の物語。

佐々木 敦 (批評家) × 小さな声で囁いて

誰もがよく知っている熱海が、異国の土地に変貌する。台詞にもあるように、そこはイタリアだ。まだ十分に若い、だがもうすぐ若いわけではない恋人同士の男女も、どこか日本人であることから逃れようとしているかに見える。これは『イタリア旅行』のリメイクなのだ、そんな予感が頭をよぎる。もちろん、山本英は1953年のロベルト・ロッセリーニではない。2017年に撮影された日本映画として、この作品は端正な瑞々しさと奥ゆかしい大胆さを身に纏いつつ、ここにある。『イタリア旅行』のあの奇跡のラストシーンとは全く異なった、だが同じくらい唐突で愛すべきラストショットが、あなたを待っている。

梶井 省志 (映画プロデューサー) × からっぽの横

Na Na Na Na Na. この映画一体いつの時代の映画 Naんだ！駄目な奴らと不幸な奴らのオンパレードじゃないか！俺も昭和の出来損ないだった頃、こんな類の映画ばかり観て悦に入っていたのを思い出した。挙げ句の果て、今やこんな半端者だ。この映画、イマドキのガキどもには絶対受けないから、覚悟しておけ。受けない映画を作るっていうのがいかに快感かっていうこと、せいぜい楽しむんだ！そしてこんな映画を作った川上は、己が世間のハグレ者なんだということをおよく自覚しろ。渡邊頼んだぞ！大橋には悪いが、エンディング曲は絶対ジャックスに差し替えてくれ！この映画には、早川義夫の歌が必要なんだよ！この映画を観てからというもの、俺の耳は、『からっぽの世界』がずっと鳴り響いている。どうしようもないんだ・・・

ところで、肝心の映画の結末は一体どうなってんだ。テメエらはっきりしろよ、自分の映画に責任持てよな！

2018.3.3(SAT)-9(FRI)

@渋谷ユーロスペース

[上映スケジュール] 21:00 上映開始

上映日時	上映作品	監督
3.3 (SAT)	『向こうの家』	西川達郎
3.4 (SUN)	『からっぽの横』	川上知来
3.5 (MON)	『小さな声で囁いて』	山本英
3.6 (TUE)	『からっぽの横』	川上知来
3.7 (WED)	『向こうの家』 + 『森のかたみ』	西川達郎 + 大杉拓真
3.8 (THU)	『小さな声で囁いて』	山本英
3.9 (FRI)	『森のかたみ』	大杉拓真

[チケット料金]

種類	料金	使用条件
前売券	一日券 ¥700 均一	本券1枚につき1日入場可能
当日券	一日券 ¥900 均一	本券1枚につき1日入場可能
フリーパス券	¥1,500	本券1枚につき会期中何度でも入場可能



ユーロスペース
EUROSPACE

アクセス: 渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 3F
(渋谷・文化村前交差点左折)
お問い合わせ: 03-3461-0211
会場ウェブサイト: <http://www.eurospace.co.jp/>
主催: 東京藝術大学大学院映像研究科

HP: <https://geidaifilm2018.com>
Instagram: @tua_films
お問い合わせ: opengeidai@gmail.com

東京藝術大学大学院 教授コメント

映像研究科映画専攻 第12期生修了制作展

Graduate School of
FILM AND NEW MEDIA,
Tokyo University of the
Arts, Film Production
The 12th Graduate
Works Exhibition

東京藝術大学大学院

映像研究科映画 第12期生修了制作展

2018.1.27(SAT)-28(SUN)

@東京藝術大学横浜校地馬車道校舎

2018.3.3(SAT)-9(FRI)

@渋谷ユーロスペース

黒沢 清 KIYOSHI KUROSAWA

他者との意思の疎通はかくも困難で、現状を認識し世界を理解することは、耐えがたい苦痛を伴ってしか成し得ない。それぞれにスタイルの異なった4作品が共通して掲げるテーマはそれだ。しかも作者たちは、その困難や苦痛にじっくりと時間をかけて耐え、安易な逃走を自らに禁じている。つまり、この4作品のどこにも“誰にも頼らず、たったひとりですらの意思を貫く”人物は登場しない。そのような古典が楽しかった時代は彼方に過ぎ去った。それでも映画は娯楽であることが可能なのだろうか、それが4人の前に立ちはだかる課題である。彼らは真正正銘『ヒストリー・オブ・バイオレンス』以降の世代なのだ。

諏訪 敦彦 NOBUHIRO SUWA

一見何の変哲も無い風景にカメラが向けられているというのに、そこに映し出される四つの世界の相貌はまるで違っている。同じように男が、女が、子どもたちが映し出されているというのに、彼らはまるで四つの違う惑星の住人のようでもある。つまりは四つの映画がそれぞれ独自の映画の時空を成立させたことによるのであるが、しかし、「取り返しのつかない過去」と「謝罪」というモチーフが共通して見え隠れするのはなぜだろう。しかもその謝罪は決して果たされることなく、過去を乗り越えることも、関係を修復することも、他者を救うことも永遠に奪われてしまう様がそれぞれに描かれる。たとえ一本の映画を費やそうとも、世界は微動だにしない頑丈な地盤となってそこにある。そのさまが描かれるのみだ。それは絶望だろうか？ いや、むしろ喜びがある。見せかけの救済や解決にはキッパリと背を向けて、映画によって触れられる世界に、自分自身の方法で触れることができた喜び、何も変わらないが世界はそこにあるという発見。そして彼らの眼差しは静かに、微かに、しかし果敢に進んでゆく。新しい世界=映画との出会いがまだ可能であることを信じて。

向こうの家



2018年 / 82分 / アメリカンピスタ
5.1ch / カラー / DCP

出演：望月歩、大谷麻衣、生津徹、南久松真奈
円井わん、植田まひる、小日向星一、でんでん
監督：西川達郎 / プロデューサー：関口海音
脚本：川原杏奈 / 撮影：祢津尚輝
照明：小海祈 / 美術：古屋ひな子
サウンドデザイン：三好悠介 / 編集：王晶晶
音楽：大橋征人 / 製作進行：張形・花崎 愛

自分の家庭は幸せだ、と思っていた高校二年生の森田萩。しかし父親の芳郎にはもう一つの家があった。

「萩に手伝ってもらわなきゃいけないことがある」
芳郎の頼みで、萩は父親が不倫相手の向井瞳子と別れるのを手伝うことに。自分の家と瞳子さんの家、二つの家を行き来するようになった萩は段々と大人の事情に気づいていく……

監督：西川達郎
いつも「どうしようもない事」を描きたいと思っています。答えがあるようでない。実は誰も悪くないのかもしれない、誰もが悪いのかもしれない。そういう人と人との間で起こる「どうしようもない事」に翻弄される、本作の登場人物達の姿をぜひ見て頂けたらと願っています。

プロデューサー：関口海音
大人が自分と同じように失敗したり悩んだりしている姿をみてちょっと近く感じた時、私たちは「大人」になるのだろうか。皆が違う形で通過する大人の洗礼。これも一つの形、みんな人間だもの。笑って下さい！

脚本：川原杏奈
自分が書いた作品の中で最も多くの方に助言を求めた作品です。色んな人のおかげで素敵な世界が出来たと思います。毎日一緒に過ごす家族でさえ秘密の世界を持っているのです。きっと、萩ちゃんと一緒に大人を覗いてみてください。

撮影：祢津尚輝
運子の魅力に心奪われる映画です。幻想と現実、神隠しのフォークロア類型に通じる成長と葛藤の物語。儚さと力強さを感じます。

照明：小海祈
ロケセットでの限られた照明でしたが、運子の自然と建物の良さを邪魔しないナチュラルなライティングを目指しました。

美術：古屋ひな子
見る人が住みたいと思う家を作りたい。そう言われて始まりました。色んな人に助けられて作る事が出来ました。萩と一緒に瞳子さんの家に転がり込んで、そこに流れる時間を一緒に過ごして貰えたら嬉しいです。

録音：三好悠介
2つの家の雰囲気の違い、音の違いからもお楽しみください。

編集：王晶晶
想像を超えるもう一つのお家の存在です。この少年の成長を見守りながらお楽しみ下さい。

音楽：大橋征人
人間模様を吹き抜ける「やさしい風」のような音楽であればと思っています。録音に協力してくれた、ギタリストの山田唯雄君に心から感謝いたします。

製作進行：張形
美しい景色X家庭崩壊。映画の目から見える世界に。ぜひお楽しみください。

製作進行：花崎愛
真夏の向こうの家は、時間が止まったかのように暑く、美しかったです。

森のかたみ



2018年 / 67分 / シネマスコープ
5.1ch / カラー / DCP

出演：井上翔太、清水尚弥、谷口蘭、大沼百合子、穴倉暁子
監督：大杉拓真 / 脚本：中野みづほ
プロデューサー：井前裕士郎 / 撮影監督：薛白
照明：李子瑤 / サウンドデザイン：内田雅巳
音楽：大橋征人 / 美術：王慧茹
衣装：栗田珠似 / 編集：戴周杰

12年前の事故以来、秀人は弟・雅人を避けるようになっていた。数年ぶりに故郷を訪れた秀人は、ここにはいるはずのない雅人の姿を見る。

「あの日のこと、覚えている？」
雅人はそう秀人に尋ねると、秀人を事故の場所へと連れて行く。——忘れていた記憶と、覚えているつもりでいた記憶。
秀人は12年前のことを、徐々に思い出していく。

監督：大杉拓真
「二つの時間、二つの世界を共存させよう」そう意気込んでこの作品は始まりました。脚本は難航しましたが、想像以上に奇妙な世界が出来た気がしています。記憶はとても曖昧なものだけれど、過去に思いを馳せることはある種の郷愁であると、この作品を通して感じるようになりました。この映画を観た後に、ふと何気無く忘れていたことを思い出した瞬間があれば幸いです。

脚本：中野みづほ
私は脳ミソのことを信じていません。だからこの脚本を書きました。生きていく度に無くしていくもののお話です。

プロデューサー：井前裕士郎
三回目の大杉組で監督とうまく連携して製作出来たと思います。大杉作品から我々のチームプレーを少しでも感じ取って頂ければ嬉しいです。

撮影監督：薛白
未熟な作品なのだが、この二年は無駄にはしていないのだ。

照明：李子瑤
映画のラスト、薄暗い中で雅人がタバコを吸うシーンは今でも覚えている、すごく繊細な感情を表現した映画です。

サウンドデザイン：内田雅巳
イタズラな森さんの音を聞いてもらいたいです。

音楽：大橋征人
記憶、後悔、愛情、不安のレゾナンスと、それらの残響。ある家族が持つメランコリーの表象を、音楽のテクスチャが支えられていたら幸いです。

美術：王慧茹
何をしても、今回美術の仕事はこの物語に馴染んで行くのだと思います。どれも美術をやったのがわからないならむしろ嬉しいです！映画を見て満足であれば幸いです！

衣装：栗田珠似
数年ぶりに故郷に帰り、母に会う秀人の心情が服装から見えたら嬉しいです。

編集：戴周杰
編集の断捨離は自分に対して一番大きな課題だった。「森のかたみ」の編集に関しては、「省略」はとても大事だと思った。一部のカットを棄て、観客が想像する上にキャラクターと感情を共有できると考えた。

小さな声で囁いて



2018年 / 110分 / 16:9
5.1ch / カラー / DCP

出演：大場みなみ、飯田芳、山崎陽平、中野目理恵
監督：山本英 / プロデューサー：佐野大
脚本：山本英・山崎陽平 / 撮影：李子瑤
照明：薛白 / サウンドデザイン：織笠想真
録音：三好悠介 / 美術：加藤瑠子
衣装：栗田珠似 / 編集：丹羽真結子
音響効果：村貫誠 / 製作進行：張形・花崎 愛

11月初めの秋、付き合って5年が経つ沙良と遼は熱海旅行に来ている。有給休暇を使った3泊4日の小さな旅だ。遼は沙良と結婚する準備をしているが、沙良は遼と結婚をしたくない。なぜ結婚をしたくないのか自分でも分からない沙良は、旅先でも遼を避けて行動している。二日目の午後、沙良は一人で室内プールに行った。そこで背中大きな傷を負った山崎という男に声をかけられる。

監督：山本英
旅先で見かけるあの人達は誰なのだろう。楽しそうにしていたり、寂しそうにしていたり、同じ場所で同じ時間を過ごしているのに、僕は彼らのことを全く知らない。そんな知らない誰かのことを思い、この作品を作りました。

プロデューサー：佐野大
キャスト・スタッフ一同、熱海で12泊13日の合宿をして撮影しました。制作中は想定予算に収めるため、日々数字と戦っていました。どうかまどろみながらも、約二時間の熱海観光3泊4日にお付き合いください。

脚本：山崎陽平
みなさんが、いろいろな喋りかたで、いろいろなことを話しているの、楽しかったです。

撮影：李子瑤
初島での撮影が大変でした。

照明：薛白
撮影終わった後、また熱海に何回も行きました。

サウンドデザイン：織笠想真
今回は、録音部現場応援からボスプロ音響効果など、手伝って頂いた方々へは感謝の気持ちでいっぱい。また、それ以外のスタッフ共々完成へ向けた道のりは、とても心地の良い時間を過ごせた作品でした。

美術：加藤瑠子
「熱海」に漂う哀愁とキラメキが、画とヤシの木から出たら嬉しいです。美術いらずのイカした場所がATAMIです。

衣装：栗田珠似
熱海にきた浮かれてない2人を見て欲しいです。

音楽・音響効果：村貫誠
熱海楽しかったです…

編集：丹羽真結子
編集によって何十、何百通りにもなり得た可能性がありました。でも、わたしたちが伝えたかったのはこの物語だけでした。

製作進行：張形
熱海に行って何がかわるかも…という風を感じた作品です。

製作進行：花崎愛
物語に合うよう、暗く冷たい、色の限られた世界を意識してルックを作りました。監督と話し合った結果ほぼ全てのシーンを固定の引き画のみで撮影しています。俳優の芝居と場所の持つ雰囲気の全てを感じ取ってもらえればと思います。

からっぽの横



2018年 / 104分 / ヨーロピアンピスタ
LCR / カラー / DCP

出演：田中佐季、塩見大貴、紗都希、小松勇司、諏訪敦彦(特別出演)
監督：川上知来 / プロデューサー：渡邊健悟
脚本：李奈媛 / 撮影：小海祈
照明：祢津尚輝 / 録音：魚野智生
美術：云丹 / 小道具：堀千夏
編集：高井美沙 / 製作応援：張形

4人が互いに関係を崩し合いながら過ごす、バラバラの生活。物語男は、身近な人間関係を小説に書く。以前それで身近な人を傷つけたけど書く姿勢は崩さない。彼に惹かれたホテル女は、自分のことを書いて欲しいと願いながらホテルで働く。夜勤男は、同棲中のホテル女の心が自分から離れたことに苦しみながら夜勤をこなす。旅女は、物語男に会うための旅に出た。私とこのことを書き、私を傷つけた物語男に、会って確かめたいこと。

監督：川上知来
人々の暮らしの隅にいて、自分が居ていい場所を見つけられずにいる人を撮りたくて制作しました。その様な人が持っていたはずの繋がりはどうしたら壊れずにあれたのだろう、ということは撮り終えた今でも考えています。

プロデューサー：渡邊健悟
「学生映画は拙いもの」。そう言われて切り捨てられるのだろうか？そこにはただ映画が好きで阿呆どもの若さが、自由が、情熱が、高い純度で込められている。スタッフロールの一人一人を見てほしい。これは僕らからの挑戦状だ。

脚本：李奈媛
からっぽの横にとどまっているひとりひとりのこと。私は大好きです。皆さんも大好きになってください。

撮影：小海祈
物語に合うよう、暗く冷たい、色の限られた世界を意識してルックを作りました。監督と話し合った結果ほぼ全てのシーンを固定の引き画のみで撮影しています。俳優の芝居と場所の持つ雰囲気の全てを感じ取ってもらえればと思います。

照明：祢津尚輝
見えるものと見えないもの。見えないものの中に本質が隠れています。照らされていない世界に目を凝らして観てください。

サウンドデザイン：魚野智生
この映画を観て何かを感じていただければ幸いです。

美術：云丹
4種類の主色を採用する事によって4人の主人公の性格及び彼らの運命の展開を導きました。単独シーンの精緻さと華麗さを強調していません。全体の美術の風格を統一させました。美術でストーリーを深め、人物の内心感情を表現したいです。

編集：高井美沙
「からっぽ」の先に見えるものは何か。それぞれの人物の、空白な感情に寄り添いながら、編集をしました。実際に、映画館で、この物語の空気を感じてほしいです。

製作応援：張形
オーディションした方がほとんどキャストとして起用されました。この作品から孤独な“私”が見えてきました。孤独な寂しさが溢れます。